

保育界

2015
6



発行 日本保育協会

園児の想いを引き出す

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にする心を育みます。

こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



とんぼ、ちょうちょ、あおむし…。既存の花壇をビオトープにするために、園児が訪れてもらいたい生きものを描く。
提供：山下初美氏（1級こども環境管理士／福岡県）

『質問の仕方を工夫』



園児は、楽しい遊びができる環境を欲しています。変化に富んで、様々なものがあり、友達と一緒に遊んでものを集めたり、探したり、つくったりできる場所を望んでいます。ビオトープは、日々変化する園児の多様な興味関心に応えます。

園庭にビオトープをつくる時には、ぜひ園児にも想いや希望を聞いてみましょう。「園庭でどんな遊びがしたい?」「どんな虫さんと出会いたい?」など質問の仕方を工夫すれば、野外で楽しい体験をしている園児ほどたくさんの答えが返ってきます。言葉ではなく絵を描いてもらってもいいでしょう。

こうした園児の想いや希望は、保育者間、保護者間で共有しましょう。そして、その実現のために、部分的にでも園庭の改修を考えましょう。改修の計画をつくる時には、地域のビオトープの専門家、例えばビオトープ管理士などに園児の想いや希望をみせて相談すると良いでしょう。

■日本保育協会ほか後援『ドイツ・自然とのふれあいを大切にする園づくりツアー2015』

本ツアー（14回目）では、自然を活かした保育環境づくりを積極的にすすめるドイツ西部のノルトライン・ヴェストファーレン州の保育所・幼稚園、そうした取組を支援する行政機関を訪問します。期間は8月17日（月）～23日（日）の7日間。募集人員は20名程度。募集の締切は6月26日（金）です。詳しくは、日本生態系協会のサイトをご覧ください。